



情報ボックス

通いの場などの社会参加を促す地域資源を 専門家が登録、検索、情報提供するサイトを開設 地域資源見える化システム「ミルモネット」勉強会を開催

福祉に関わる社会課題の解決をミッションとして掲げるITソーシャルベンチャー企業の株式会社ウェルモと東京都健康長寿医療センター研究所は6月22日、高齢者の社会参加を促すための地域資源見える化システム「ミルモネット」勉強会を開催した。会場には、都内の地域包括ケア担当者らが詰めかけた。

高齢者の社会参加がQOL向上はもちろん、医療費や介護費の適正化に有益であることは、広く知られている。しかし、通いの場などの社会資源を、膨大な古い情報も混在する「地域資源マップ」などの紙媒体等の中から、迅速かつ適切に窓口等で提供することは、多忙を極める地域包括支援センターには困難。現状では、多くの専門職は限られた経験知にもとづいて限られた社会資源を紹介することしかできずにいる。こうした地域資源の検索性の低さの解消とともに、保険サービスと保険外サービスを上手く組み合わせて効率的に提供できる仕組みづくりが、現場では大きな課題となっている。

この日、そうした課題の解決に向けて紹介されたのが「ミルモネット」と名づけられたサイトだ。すなわち、社会参加につながる地域資源を一元的にパソコンやタブレット等の端末で管理・活用するための「地域資源見える化サイト」である。

サイトのトップ画面は、書棚に保管されたカテゴリー別のファイルに見立てられ、訪問系や通所系等の介護保険サービスとともに、生活支援（自費ヘルプ）、活動・通いの場、配食、介護タクシー・移送、その他の便利サービスといった保険外サービスが地域包括支援センターの管轄地域ごとに分類されている。クリックすると、サービス区分ごとあるいは利用者宅周辺の地域単位で営業日や空き状況、特徴といった専門職が把握した利用者目線の情報が表示される仕組みで、地域包括支援センタースタッフやケアマネジャーなどの専門職が推奨する地域資源がアップされる点が特徴である。「よく使う情報をフォルダ管理し、情報へのアクセスから印刷までを最短に」「使えば使うほど賢くなり、新しい地域資源の発見につながる」が売り文句で、フィールドとなる

東京都大田区と東京都健康長寿医療センター研究所との三者間連携で開発と利用促進にあたる株式会社ウェルモは、「市町村内のほかの地域包括支援センターでの利用実績のある資源をピックアップし、レコメンドする機能もある。当該センターでの活用実績がない場合でもほかのセンターでの利用実績があれば、安心して利用者にお勧めできる。そういう工夫をした」と利点を強調した。

一方、開発プロセスと活用方法について説明した東京都健康長寿医療センター研究所社会参加と地域保健研究チームの野中久美子氏は、社会参加を促進する効果があつて頻繁に活用されている社会資源・プログラムを提供する当該事業者が地域包括支援センターが「ミルモネット」への登録を促し、株式会社ウェルモが登録・更新支援を行うシステムと解説。その上で、「登録される地域資源が増えれば、地域包括支援センターが紹介できるバリエーションが多様化し、より効率的かつ適切な社会参加が促せるようになり、資源の紹介が標準化できる」と意義を指摘した。単に、チラシ等の紙媒体で保管されているファイルから地域資源の情報を探し出すなどの手間が省力化されるだけでなく、社会参加や生活支援に関わるサービスやプログラムの開発・改良に向けた地域資源側の気づきにもつながると説明し、「地域資源が豊富な大都市部の地域包括ケアを機能させるシステムに育ってほしい」と期待を寄せた。

ゴルフによる認知症予防効果で 単語記憶6.8%、論理的記憶11.2%向上

国立長寿医療研究センター、東京大学、杏林大学、
ウイズ・エイジング協議会が協働研究を実施

国立長寿医療研究センターは3月23日、ゴルフの認知症予防効果に関する協働研究成果を発表した。

認知症予防には、有酸素運動等の身体的アプローチと認知的アプローチを組み合わせたダブルタスク運動が効果的とされている。ゴルフには、姿勢を保つための体力やバランスなどが必要とされる上、スコアを数えたり戦略を考えたり、あるいはほかのプレイヤーとの交流によって新しいコミュニティの発展の可能性も期待できることから、東京大学、杏林大学、ウイズ・エイジング協議会とともに協働研究を実施した。運動習慣がない高齢男女106人をゴルフ教室と健康教室に振り分け、前者では、90分間の練習14回と120分間のコース10回の計24回のセッションを毎週実施し、自宅でもゴルフ練習やストレッチの継続を促すとともに、教室中には参加者同士のコミュニケーションを促進した一方、後者には、90分間の講座を期間中2回のみ開催した。

その結果、ゴルフ教室群では、単語を覚える単語記憶検査で6.8%、物語の筋を記憶する論理的記憶検査で11.2%の向上が見られた。また、ゴルフを続けたいとした対象者は85%で、「気持ちが前向きになった」(48%)、「歩くのが早くなった」(38%)、「良く眠れるようになった」(33%)といった声も目立ち、心身の変化を感じた人がたくさんいたと報告した。

ウィズ・エイジング協議会では、ゴルフの多様な要素や社会的相互作用で身体活動や認知機能などが促進され、良好な結果に結びついたとしている。

市民活動の活発な地域では抑うつ所得格差が大きい 低所得者に恩恵が行きわたっていない可能性

日本老年学的評価研究プロジェクトがプレス発表会で指摘

日本老年学的評価研究(JAGES:Japan Gerontological Evaluation Study)プロジェクトは7月17日、東京大学でプレス発表を行った。

その中で、東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻健康教育・社会医学分野の長谷田真帆氏は、「市民活動の活発な地域では高齢者における抑うつ所得格差が大きい」とする論文を紹介した。30市町村の要介護認定を受けていない高齢者を調べたところ、ボランティアや趣味の会、スポーツの会、教養サークルなどの市民活動参加割合が高い地域では、高所得者の抑うつ症状が少ない一方、低所得者では必ずしもそうではなかった。具体的には、市民活動参加割合が平均的な地域では高所得者と低所得者の抑うつ症状の有病割合の差が男性で17.4%、女性で14.4%だったが、市民活動参加割合が高い地域では男性で18.8%、女性で15.4%と拡大していた。

長谷田氏は、「ソーシャルキャピタルの高い地域に住む高齢者の抑うつ症状の有病割合は全体として低い、市民活動参加割合が高い地域では、高所得者により恩恵がある一方、低所得者にはそれが必ずしも行きわたっていない。抑うつ症状の有病割合に所得階層間格差が存在する可能性がある、地域活動の際には、一定の配慮が必要」と指摘した。

郵便局で病院予約、子どもや高齢者の見守り 買い物支援、医薬品販売など実施へ

総務省が「少子高齢化、人口減少社会等における郵便局の役割と利用者目線に立った郵便局の利便性向上策」の答申をとりまとめ

総務省の情報通信審議会郵政政策部会は6月11日、「少子高齢化、人口減少社会等における郵便局の役割と利用者目線に立った郵便局の利便性向上策」の答申を取りまとめた。

答申では、全国約2万4000局の郵便局に期待され

る役割、利便性向上のための取り組みの方向性として、①行政サービスの補完、②暮らしの安心・安全のサポート、③住民生活のサポート、④まちづくりのサポート、⑤郵便局のサービスの多様化を指摘。このうち、暮らしの安心・安全のサポートでは、地方自治体や企業が郵便車両やポストにカメラ・センサーを設置し、ICタグを所持した子どもや高齢者がすれ違った際にその情報が家族等に通知される見守りの役割などを挙げた。また、住民生活のサポートでは、地方自治体や社会福祉法人等が郵便局スペースに保育所等を設置して保育機能の充実をはかったり、地元商店街等と連携して食料品などの注文を受け、郵便局が集荷、配送する買い物支援を行うといった案とともに、郵便局で通院者の病院予約や移動手手段の手配を行う案や、医薬品販売業者との連携によって郵便局窓口で医薬品を販売するといった案などが挙げられた。

答申では、これらの実現に向け、国に対して実証事業や環境整備、また地方自治体に対してはコーディネート役割、適切なコスト負担などが必要と指摘している。

健保連加入者の生活習慣病医療費は約4396億円 総医療費の11.2%を占め、前年度より105億円増加

健康保険組合連合会が平成28年度生活習慣病医療費の動向に関する調査分析を公表

健康保険組合連合会はこのほど、平成28年度生活習慣病医療費の動向に関する調査分析を公表した。1260組合の電算処理レセプト(医科・調剤計2億6403万5848件)を対象にICD-10疾病分類にもとづく生活習慣病疾患について、その基礎数値をとりまとめたもの。

それによると、総医療費(医科+調剤)約3兆4324億円のうち、生活習慣病10疾患医療費は約4396億円で全体の11.2%を占めた。27年度と比べ、総医療費は3524億円減少したが、105億円増加した。

加入者に占める生活習慣病10疾患の有病者割合を見ると、高血圧症5.1%が最も高く、高脂血症4.7%、糖尿病3.4%が続いた。生活習慣病10疾患の医療費構成割合は、医科入院では脳血管障害33.6%、虚血性心疾患31.4%、糖尿病12.7%の順に高く、医科入院外では高血圧症30.5%、糖尿病27.9%、高脂血症18.4%の順に高かった。一方、推計1入院当たり医療費は、「本人」では脳血管障害86万8714円、人工透析77万1485円、虚血性心疾患53万8044円の順で高く、「家族」では人工透析105万211円、脳血管障害74万9716円、虚血性心疾患25万1611円の順で高かった。

(記事提供=株式会社ライフ出版社)

